

## 茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和5年6月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケート形式で情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。この度、令和5年6月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

### 1 調査結果

～ 景気判断DIは現状、先行きともに2期連続で50超え ～

区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI(Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気 directional (景気が上向きか下向きか) を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出している。  <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
	6月調査結果	前回調査との差	6月調査結果	前回調査との差	
県全体	57.5	(+4.0)	53.5	(Δ2.3)	
県北	58.2	(+13.6)	56.1	(+2.2)	
県央	61.2	(+1.8)	56.1	(Δ4.6)	
鹿行	55.6	(+4.2)	51.7	(Δ2.0)	
県南	55.1	(+3.7)	51.0	(Δ5.6)	
県西	57.1	(Δ2.2)	52.6	(Δ1.2)	

### ☆ここがポイント

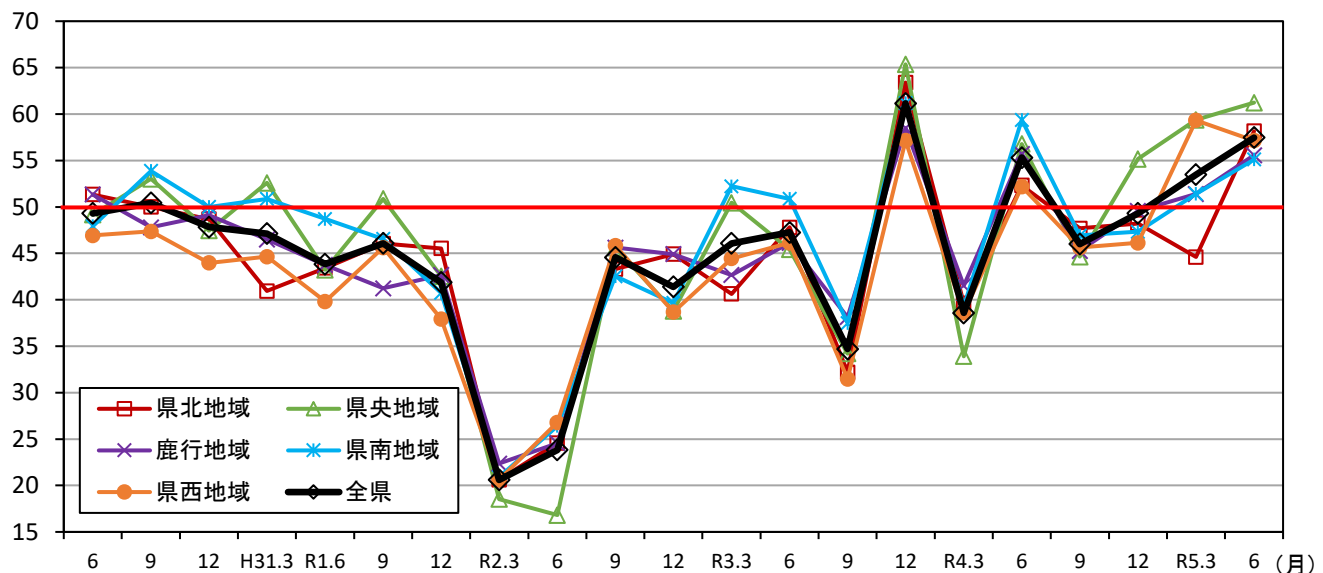
○県全体の景気判断DIは、現状、先行きともに前回調査に引き続き50を上回った。

○地域別では、前回調査と比較し現状は県西のみ下回り、先行きは県北のみ上回った。分野別では、雇用関連の現状、家計動向関連の先行きがともに前回調査を下回った。

○ウォッチャーからは、商品等の値上げや新型コロナウイルスに関するコメントが多く寄せられた。

※かつこ内は参考値（調査客体人数変更のため）

(DI) 景気現状判断DIの推移（地域別）



#### 〔調査の概要〕

- ・ 調査客体数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに50名、計250名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和5年6月5日から20日まで）
- ・ 回答率 … 96.4%（250名中241名から回答）

（地域区分）  
 県北地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町  
 県央地域：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村  
 鹿行地域：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市  
 県南地域：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町  
 県西地域：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

※今回調査から、調査客体数を変更した。【変更前】地域ごとに60名、計300名 → 【変更後】地域ごとに50名、計250名  
 このため、本報告書内の前回調査とのポイント差は参考値となる。

〈参考〉

現状判断回答構成比

調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	7.1%	3.2%	4.9%	8.1%	8.7%
やや良くなっている	35.7%	20.9%	24.9%	29.7%	37.8%
変わらない	33.2%	40.8%	39.3%	36.6%	32.0%
やや悪くなっている	19.4%	27.0%	24.2%	19.4%	17.8%
悪くなっている	4.6%	8.2%	6.7%	6.2%	3.7%

先行き判断回答構成比

調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
良くなっている	5.3%	1.1%	1.8%	8.4%	5.0%
やや良くなっている	32.5%	23.0%	18.2%	32.6%	27.4%
変わらない	30.7%	43.6%	47.0%	38.1%	46.5%
やや悪くなっている	26.5%	24.5%	26.7%	15.4%	19.1%
悪くなっている	4.9%	7.8%	6.3%	5.5%	2.1%

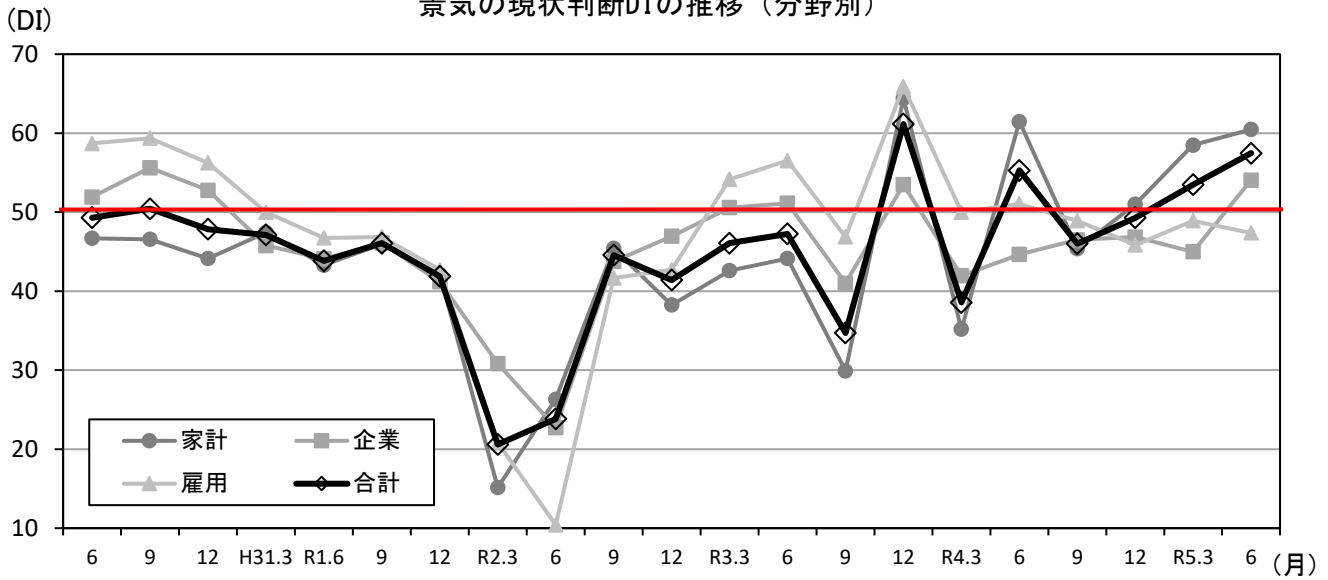
## 2 分野別の動向

### (1) 現状判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より2.0ポイント上昇し、3期連続で50を上回りました。  
 企業動向関連DIは、前回調査より9.1ポイント上昇し、6期ぶりに50を上回りました。  
 雇用関連DIは、前回調査より1.5ポイント低下し、4期連続で50を下回りました。

調査年月	令和4年 6月	令和4年 9月	令和4年 12月	令和5年 3月	令和5年 6月
分野					
合計	<b>55.3</b>	<b>46.0</b>	<b>49.3</b>	<b>53.5</b>	<b>57.5</b>
家計動向関連	<b>61.5</b>	<b>45.4</b>	<b>51.0</b>	<b>58.5</b>	<b>60.5</b>
小売関連	54.9	40.8	44.6	49.6	58.6
飲食関連	68.8	41.3	65.5	68.1	69.4
サービス関連	67.0	51.6	53.0	65.1	59.1
住宅関連	46.9	36.1	50.0	52.8	63.9
企業動向関連	<b>44.7</b>	<b>46.5</b>	<b>46.8</b>	<b>45.0</b>	<b>54.1</b>
農林水産業	34.4	37.5	40.6	28.1	46.9
製造業	43.1	46.3	48.4	46.0	55.9
非製造業	49.3	49.2	46.1	47.7	53.6
雇用関連	<b>51.0</b>	<b>48.9</b>	<b>45.8</b>	<b>48.9</b>	<b>47.4</b>

景気の現状判断DIの推移（分野別）

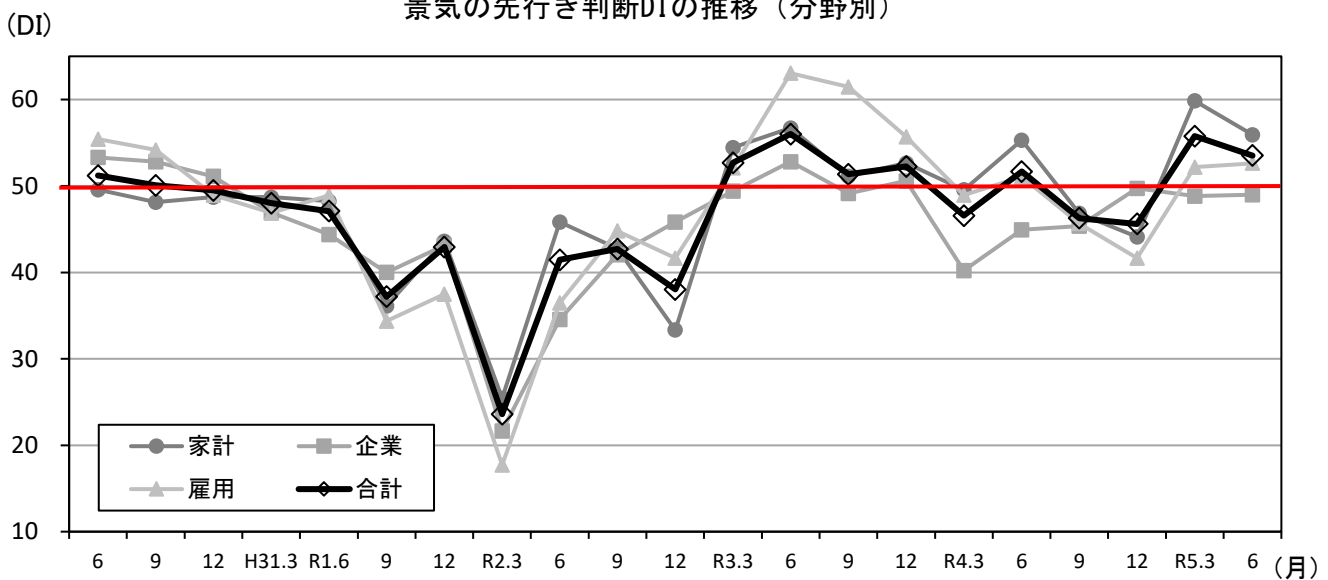


(2) 先行き判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より3.9ポイント低下したものの、2期連続で50を上回りました。  
 企業動向関連DIは、前回調査より0.2ポイント上昇したものの、6期連続で50を下回りました。  
 雇用関連DIは、前回調査より0.4ポイント上昇し、2期連続で50を上回りました。

分野	調査年月	令和4年6月	令和4年9月	令和4年12月	令和5年3月	令和5年6月
合計		51.7	46.3	45.6	55.8	53.5
家計動向関連		55.3	46.8	44.1	59.8	55.9
小売関連		47.0	40.4	41.4	54.9	53.0
飲食関連		71.3	52.5	47.6	66.7	65.3
サービス関連		61.0	51.3	45.9	63.7	56.3
住宅関連		31.3	44.4	41.7	52.8	52.8
企業動向関連		44.9	45.3	49.7	48.8	49.0
農林水産業		28.1	34.4	46.9	37.5	43.8
製造業		46.3	48.4	48.4	49.4	50.0
非製造業		47.1	43.5	52.3	50.8	49.1
雇用関連		51.0	45.7	41.7	52.2	52.6

景気の先行き判断DIの推移（分野別）



### 3 ウォッチャーのコメント抜粋

#### (1) 県北地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは58.2となりました。前回調査より13.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を4期ぶりに上回りました。

- ・ (ゴルフ場) 新型コロナウイルスの分類が第5類感染症になったことで様々な制限が緩和され、人の動きが活性化していると思うので、良くなっていると判断した。
- ・ (製造業 (電気機械器具)) 生産性が多少なりとも向上して、売上げも伸びてきた。また、月に6時間程度残業もあるため、やや良くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは56.1となりました。前回調査より2.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (求人開拓員) 引き続き来所者増が見込めるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (小売業 (水産物)) インバウンド効果や観光客の増加を期待し、また新型コロナウイルスの各種対策の終了により、やや良くなっていると判断する。

#### ③ 特徴的動き

- ・ (観光型ホテル) 新型コロナウイルスが終息傾向にある今、各種団体等の宴会を含む会食が多くなり、賑わいをみせている。新型コロナウイルスの影響で、出来なかった事 (総会、送別会、歓迎会、同窓会) が、終息傾向で開催されている現状は良い兆しと感じている。
- ・ (製造業 (精密機械器具)) 今年の春まで、部材が予定どおり入り難い状況が続いていたが、現在はようやく解消されてきている。

#### (2) 県央地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは61.2となりました。前回調査より1.8ポイント上昇して、横ばいを表す50を3期連続で上回りました。

- ・ (スーパー銭湯) 客数、客単価とも上昇傾向のため、良くなっていると判断した。また、物価高による価格転換もしたが、同業者も値上げをしているため、大きな影響が出ていない。
- ・ (運輸業) 徐々に顧客製品の出荷台数も増えてきているため、やや良くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは56.1となりました。前回調査より4.6ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (楽器販売) ここ数年のコロナ禍の期間は、夏も祭りがなく、遠出もしない日々だったが、今年の夏はやっとそこから抜け出して、イベント等が復活する気配である。既にイベント等が生まれ、弊社でも動きが始まっているため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (求人広告) 賃金高騰が足かせになり事業展開がうまくいかない事が多いと思うため、やや悪くなっていると判断する。

#### ③ 特徴的動き

- ・ (道の駅) 一昨年、昨年と4月~5月新型コロナウイルスが流行していた時に、売上げ・客数とも伸びていた。これは、人混みを避けるため、自然がいっぱいある当店周辺に客が来たのと、バス移動でなく感染リスクが少ないマイカーでの来客が当店に来たためと思われる。今年はバス移動や人混みがある施設に客が向いたため、当駅への来客が減少した。
- ・ (バス運転手) 豪華客船の寄港をはじめ、インバウンド旅行者の来県が増えてきた。コロナ禍からの復活の起爆剤となることを期待したい。

### (3) 鹿行地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは55.6となりました。前回調査より4.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (スーパー) 売上高は好調に推移しており客数も伸びているため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (農業関係者) 新型コロナウイルス感染症が2類から5類感染症へ変わり、消費者も購買意欲も高く、前年度より農産物の販売高も順調に推移しているため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは51.7となりました。前回調査より2.0ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (公共職業安定所) 物価の上昇を商品価格に反映しやすい大企業において、求人申込の状況がやや良くなってきており、徐々に良くなっていく見込みがあるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (和食レストラン) 原材料の高騰等が止まらない気配のため、やや悪くなっていると判断する。

#### ③ 特徴的動き

- ・ (家電販売店) 大型商品、小型商品、消耗品共に値上げが続いている。
- ・ (日本料理店) 飲食店はまだまだ厳しいようで、店を閉めてる所を見かける。人材不足的な問題もあると思う。

### (4) 県南地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは55.1となりました。前回調査より3.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (製造業(非鉄金属)) コロナ禍から脱却しつつあり、依然として半導体供給不足の懸念は残っているものの、少しずつではあるが主力取引先からの受注が回復してきているため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (洋食レストラン) コロナ禍も落ち着き、以前よりも団体(4~5名)の客が増えた気がする。単価も前より増加傾向にあり、これは時間を気にせず滞在時間が増え、プラス1品のデザート、ドリンクなどが注文されているからだと思うので、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは51.0となりました。前回調査より5.6ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

- ・ (農産物直売所) 物価が上がり、客数が減少している現在の状況が良くなっているとは思えないため、やや悪くなっていると判断する。
- ・ (求人開拓員) 今後3ヶ月に関しては、求人登録数が見通しとして前年を大きく上回ることが想定されるため、やや良くなっていると判断する。求人開拓で企業を訪問しているが、製造業・医療・福祉が特に求人難であると思われる。

#### ③ 特徴的動き

- ・ (スーパー) 一般加工品の値上げが相次いでいる関係でレギュラー品と嗜好品の価格差が小さくなってきているため、価値訴求品の支持が上がってきているという実感がある。おそらく当面この傾向は継続すると予想している。
- ・ (都市型ホテル) 当社はホテルであるが、海外のインバウンドが増加傾向である。特に台湾が最多であり、9割は台湾からの来日である。4月484人、5月282人の宿泊利用。台湾の次は香港、インドネシアと続く。今後も増加傾向にある。

## (5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは57.1となりました。前回調査より2.2ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (設計事務所) 仕事の依頼、問合せが多くなったため、良くなっていると判断した。
- ・ (人材派遣業) 例年の傾向より仕事の依頼が減っている感じがする。また、夏期季節繁忙も例年割れの見通しの企業が多い印象のため、やや悪くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは52.6となりました。前回調査より1.2ポイント低下したものの、横ばいを表す50を2期連続で上回りました。

- ・ (家電販売店) 少しずつではあるが、冷蔵庫、エアコンなどの単価が上がってきている。リフォームに対する関心も増えている。必要に応じた事に対しては消費行動が活発化しつつあるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (製造業(印刷・同関連業)) 資材の値上がりに価格が追いついていないため、やや悪くなっていると判断する。

### ③ 特徴的動き

- ・ (和食レストラン) 各団体とも総会が開かれ、アルコールなしのランチ会なども開催され始めた。
- ・ (旅行代理店) 急激に回復した観光関連業種だが、コロナ禍で人員削減したため、人手不足で悩んでいる。

## (6) 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

- ①「**値上げ、高騰、上昇**」に関するコメント 177件 (県北: 28 県央: 36 鹿行: 31 県南: 45 県西: 37)

- ・ (サービスエリア) 新型コロナウイルスの感染予防に対する自粛の動きが緩んでいくことで、観光需要、インバウンドの高まりが期待される。一方食材や水光熱費の高騰による、店舗の値上げの動きも止まる様子がない。現状は客数の減を単価の増で補っている面もあるため、全体としては景気に大きな動きはないと思われるので、変わらないと判断する。
- ・ (スーパー) 毎月、商品値上げによる価格変更が多くて仕事量が増えている。

- ②「**新型コロナウイルス**」に関するコメント 88件 (県北: 21 県央: 24 鹿行: 17 県南: 16 県西: 10)

- ・ (小売業(食品)) 業種により違いがあるようだ。新型コロナウイルスの影響は緩和されたが、まだ動きは元に戻らないため、変わらないと判断した。
- ・ (製造業(食料品)) 夏休みも人流の回復が見込まれるが、一方で新型コロナウイルスの影響も懸念されるため、変わらないと判断する。

- ③「**5類(感染症)**」に関するコメント 42件 (県北: 11 県央: 12 鹿行: 7 県南: 8 県西: 4)

- ・ (金融業) GW明けの新型コロナウイルス感染症5類感染症移行に伴いコロナ禍前の日常への期待感が高まり、業種別実態に差はあるものの総体的な経済活動は回復基調にあるものと思われるため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (情報通信業(情報サービス業)) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行により顧客との面会や会食機会が増え、良い意味で元気になってきていると感じるため、やや良くなっていると判断した。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページを御覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>